

海坊主の海想記

車の看板

丘に上がった海坊主

よく街中で見かける車の看板は、ほとんど会社の名前だと思う。〇〇運送とか〇〇会社とか。

中には、派手なアニメ調のキャラクターを車体全体に描いている車(イタシャ)もある。

たまに見ると、楽しい気持ちになる時もあるが、自分ではとてもじゃないけれど、乗りたくない。しかし、それと同じくらい恥ずかしく思ったことがあった。

沖縄や石垣島に行った時、車のドアの下の方に、こんな文字を見たことはないだろうか? 「農業」や「漁業」という文字を。

私が住み着いた頃、軽トラック等で、やたら目に付いたものだ。実際、農業・漁業者は書かなければいけないのか? という程だった。

「公務員」とか「電気屋」とか「建築屋」とか書いて走っていたら、それはそれで楽しいのに、なんて考えてはニヤニヤしていた時もあった。

酒盛りの際に冗談でこんなことを言っていた。

「ぼちぼち自分もドア下に“漁業”と書かないといけなかな?」なんて、笑っていた

ものだった。

やがて、東京から持ち込んだ車が車検を迎えた。近所の商店主の親戚に中古車屋がいるというので、なんとか安く車検が取れないかと相談した。その人は、東京でもそんな商売をしていた人で、自分の身の上を聞いて、“最低限でやってあげましょうね”と、快諾してくれた。

ところが、点検のためにジャッキアップした折に、シャーシがポッキリと折れてしまったというではないか。

確かにその車、東京で水槽のメンテナンス等をする時に使われていたもので、海水がボタボタたれて、ドアもかなり錆びていた。

石垣島に来てからは、サイドドアも腐れて開け閉めができない状態だった。普通に走る時でもギシギシと音をたてていて、かなり恐怖だった。

これでは、車検は取れないということで、困り果ててしまった。しかし、その主人が「大丈夫よ! 安い車探してあげるから」と、力強い言葉をくれた。それも、ブツ壊れ車にかかった費用は、いらぬという。まさに地獄に仏とは、このことだった。

当時は、まだ熱帯魚の仕事もしていたので、ダンボール箱を数多く運搬しなければならなかった。そこで、候補に挙がったのは、日産キャラバンという大きなワゴン車だった。確かに荷物はかなり積めて、何をするにしても重宝した。



同型の車

しかし、最初にその車を見て、目を疑った。なんと、ドア下に大きく「漁業」と書いてあったのだ。“おいおい、マジかよ。こんな看板しょって走っていたら、本当の海人（うみんちゅ）に怒られちゃう”し、何より、ド素人の自分がいくらなんでも、恥ずかし過ぎる！と、口に出る寸前に、「いや～ かつこいいね」なんて社長が、私の顔を見て満足そうにしているのである。もう、後の祭りだ。“しょうがないな”と、文句も言えずに帰ってきた。

それから1ヶ月ほどは、信号で止まるたびに人目が気になり、ただ、真っ直ぐ前を見ていた記憶がある。しかし、その反面どこかに、その気になって喜んでいる、自分もいるのである。“肩書きが人を変える”とも言うじゃないか、なんて。

この車とはそれほど長い付き合いにはならなかった。商業車のため、一年後の車検でお

別れになった。何しろ「電灯潜り」では、ドロドロ道や、砂浜にも車を入れたりする。この手の車は、荷が軽いとよくスタック（立ち往生）するのだった。

もう熱帯魚は廃業し、食用魚専門になっていたもので、こんなに大きな車はいらなかった。それと、海人でもある程度稼げるようになって、月賦でも買い物出来る信用と自信がついていた。そこで、軽の四輪駆動車に乗り換えたのだ。

今度は、業者にくれぐれも、「漁業」とは書かないでくれ、と強くお願いした。その時に分かったのだが、この文字を書くのに、普通はお金が掛かるとのことだった。何から何まで世話になっていたのである。ありがとう。

しかし、これで何処に遊びに行っても、普通の人でいられる。と、思った。

◆ 大浦湾にジュゴン食跡 国内最深19・6メートル ◆

米軍普天間飛行場代替施設建設に向け、国が県に埋め立てを申請した名護市辺野古の埋め立て予定地に隣接する大浦湾で、水深19・6メートルの海底で絶滅危惧種ジュゴンの食（は）み跡が3月28日に発見された。ジュゴンネットワーク沖縄の細川太郎事務局次長によると、今回確認された場所は国内で確認された中で最も深い場所という。

ダイビングショップ桜海（おうみ）（那覇市）の岩本俊紀さん（41）が、同市安部沖約400メートルにあるアオサング群集（チリビシ）の近くで食み跡5本を確認した。

沖縄防衛局による環境影響評価（アセスメント）補正評価書では、海藻草類の分布を調べるため、遠隔操作無人探査機調査が行われたが、今回食み跡が発見された場所を含むリーフ外の深場では、海藻草類の分布は確認されていなかった。

細川事務局次長は「辺野古アセスは見落としの多い不完全な調査でしかなく、基地建設によるジュゴンへの影響が過小評価された。大浦湾が重要な生息地であることも再確認された」と指摘した。

（『琉球新報』2013年4月3日）

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-204808-storytopic-1.html>